

「評価制と公開」で存在感

農業者の自主的組織 **豊橋百農人** 愛知・豊橋市

愛知県豊橋市に農業者の自主的組織「豊橋百農人」(鈴木義弘代表)が生まれて5年。現在15会員だが、存在感を増しつつある。毎月の例会をベースに、若者との座談会や意見を共有する団体との物産展など、情報発信・異業種連携に積極的だ。昨年末には地域の食や農のPRに関心を持つ若者たちと連携してイベントを開催。相互研鑽に終わらせず、最終目標の「消費者と一体となった食農文化の確立」にまた一歩近づいた。

発足5年、「豊橋を有名にした」

食農文化確立めざし 積極的に異業種連携



河合副代表

年末に開いた「ド年末百農人グルメ祭」はアニメキャラクターを母体に結成された若者集団「ほの国ぐるめいど隊」が連携相手。農産品やグルメの即売を始め、コスプレになるイベントにできる。代表(42)は「一日中笑えて、おいしくて、ため

初代代表の河合浩樹さん(52、現副代表)はこの5年間の成果として「豊橋市を有名にしたこと」を挙げる。河合さんらは百農人がマスコミなどに取り上げられるたびに「豊橋」と言い続けてきた。次いで▽百農人の取り組みに行政がついて来るようになったこと▽自己表現ができ、違いを認め合いながら互いに成長できる若者が育ってきたこと——も収穫という。

順位付けで切磋琢磨 「他がやれない組織」に

百農人は2009年、「このままでは豊かさを誇る豊橋の食や農業が崩れてしまう」と河合さんから3人の農業者と農業や飲食業支援に取り組むデザイン会社の社員計4人が手弁当で始めた。「他がやれない組織」(河合さん)を目指し、160項目に及ぶ自己・消費者双方による評価制と公開を活動の柱とした。会費は年3万円。毎月

の例会はホテルで開き、情報交換とともに異業種交流を重点に進めてきた。「農業者だけだと技術論に偏りがち。これからはどう売るのが重要なので」と河合さん。「販売に苦労していない人や社会貢献を考えない人は入会してきません」と続ける。

現在の15人は評価ポイントにより一〜三部に格付け。さらに各部署ごとに順位が付けられ、ウェブサイトで公開されている。採点は年2回行われ、会員は「消費者との絆づくり」「農業の匠」「改革精神」「郷土愛」「情報発信」「芸農人」の各項目ごとに自分ごとの水準にあるかを知ることができると話す。

「交流が刺激」と鈴木代表 被災地へ独自の支援活動



絵の描かれた果実袋を見せる鈴木代表

市名産の次郎柿を生産する鈴木代表は東日本大震災後、小学生が一つひとつに絵を描いた果実袋入りの次郎柿を被災地に贈るプロジェクトに独自に取り組んだ。「百農人たちの交流が大きな刺激となった」と話す。

各地の話題

列島最前線



愛知県豊橋市



ゆるキャラも参加した「ド年末百農人グルメ祭」